

“教員養成秋田モデル”発信プロジェクト

—教育委員会との連携による附属学校を活用した高度な教員養成システムの構築—

(実施期間：平成24年度～)

目的

秋田県では実践知の伝承が大きな課題です。そこで附属学校に県内の実践知を集約し、附属学校でのⅠ期教育実習で学生に伝えるとともに、公立学校でのⅡ期教育実習と併せて内容を精選し、教育実習の高度化を図ります。

期待される効果

教育実習と実習系科目を継続的に実施することで、高いコミュニケーション能力と実践力を持つ教員を養成できます。



事業の概要

秋田県教育委員会と連携し、各教育事務所・出張所並びに秋田県総合教育センター、さらに各教育研究団体等の協力を得て、現職教員のすぐれた教育実践及び授業記録を附属学校園に集積します。集められた実践例をデータベース化し、教育実習の段階で実習生に提供するとともに、実務家教員を「教育実習コーディネーター」として配置し、実践知の継承を図り、ステージに応じた効果的な教育実習の在り方を研究します。

さらに、教育実習とは別に実習系科目(教育実地研究Ⅰ～Ⅳ)を新設し、学生の頃から継続的に児童生徒とふれあうことができるようにしました。このような経験を積むことで、子どもの個性の違いや成長の過程を理解できるようになり、教師の立ち位置を体得できます。

また、教育実習や新設の実習科目を実施する中で、地域や保護者とふれあう場面を設けるなど、大学・教育委員会・学校・地域及び保護者が一体となった新たな教員養成システムを開発し、全国に向け“教員養成秋田モデル”として発信します。

